

こえに だして よみましょう。

赤い鳥

小川未明

鳥屋の前に立ったらば

赤い鳥がなかった。

私は姉さんを思い出す。

電車や汽車の通ってる

町に住んでる姉さんが

ほんとに恋しいなつかしい。

もう夕方か、日がかける。

村の方からガタ馬車が

らっばを吹いて駆けてくる。

鳥屋の前に立ったらば

赤い鳥がなかった。

都の方をながめると、

